あぶらむ通信

準備号そのII

飛騨便り

「晩秋」，なんともいえない響きをもった言葉です。木葉もすっかり色づき，かたくなった葉がやがて乾いた音をたてながら土に還って行きます。私は秋が一年の終りのような気がします。なぜなら寒い冬には，もう木々には小さな芽が宿っているからです。それにあの厳しい冬が，一年の終焉とは少し酷のような気がします。紅葉と落葉をもって終りたいという私の勝手な願望でしょうか。

皆様にはお元気でお過ごしのことと思います。「あぶらむ通信準備号そのII」をお送りすることができ感謝です。

「準備号そのI」を出した時，実に多くの方々よりお便りをいただきました。心暖まるお便りをいただいていながら，返事一つせず心苦しく思っています。お赦し下さいませ。この紙面を借りて，お礼とお詫び，申し上げます。

数々のお便りの中から一つ，二つ紹介させていただきます。

沖縄愛楽園にお住まいの天久さんが次のようなお便りをお寄せ下さいました。

「……何だか大郷というアブラムの子孫が富山（ウル）から東京（ハラン）を後に一族郎党を引きつれ，カナンの山田町（ヘブロン）に他国人としてテントを張り，定住を始めた様子を思い出します。とてもいい名前のよい事業，アブラムを導かれた同じ神があなたを祝福し，天の星ほどにそこを訪れる人を与えて下さるものと信じます。信仰資本主義家族こそ，昔も今も神が最もお喜びになり，祝されるからです。私は今，新求道共同体の集会に出ていますが，この集いの終局の目的は，家族，故郷を離れ，主のための旅人となることです。ですからあなたの会の名に共鳴しました。お元気で。」

また，ある卒業生は

「……『あぶらむの宿』といってもイメージが出てこないのですが，私にとって大郷家は常に『宿』でありました。池袋しかり，屋我地（沖縄愛楽園のある島）しかり，ヨットしかり。自分自身のためにも，またこの『宿』を必要とするあらゆる人々のためにも，「勝手に」あぶらむの会を応援していきます。既に，

社会に出た自分達が，それぞれの持ち場で末永く「勝手に応援する会」を作ってゆけば，少しでもあぶらむの会のお役にたてるのではと期待しています。

これからも何か私どもでお役にたてることがあれば，どうぞどんどんおっしゃって下さい。大郷先生の『宿』にて休んだ者はだれしも，「あぶらむの会」のことが気にかかっていますし，そして，どうしたら応援ができるのかととまどっています。お金のことでも，またそれ以外のことでも，具体的にかかわっていきたいという声があちこちでていることをお伝えしたく思います。どうぞ自分たちを使って下さい。それが喜びであります。一人一人の力は限られていてもそれを結集していけば，合計以上のことをしてしまう，そういう経験を自分たちは，先生を通して学ぶことができました。……」

本当にありがとうございました。皆様からお寄せいただいたお便りにどれほど勇気づけられたことでしょうか，私たちの大きなエネルギー源です。

さて，大郷は飛騨の地で毎日どのような暮らしをしているのかと，多くの人よりたずねられます。元来なまけ者の私にとって耳の痛い質問です。

ここ数カ月，私が一番精力的にやったことは，外でもない冬の薪集めです。なぜなら，私が最も恐れていることは，飛騨の冬の厳しさに恐れをなしての家族の逃亡なのです。暖冬とよばれた昨年でも－16度という日が幾日もありました。夜，トイレに起き出るのが寒くて苦痛だった私は，バケツに水を入れ簡易トイレにして室においていました。(不精者のきわみですね) それが凍ってしまい役に立たなくなってしまうのです。

家族が初めて経験する飛騨の冬，この寒さにおじけづいて，「東京へ帰らしてもらいます」と云われもしようならば大変なこと，そこで必死の薪集めとなったわけです。10月下旬から焚きはじめ4月末までの半年間，ストーブは生活の中で重要な位置を占めています。長く厳しい冬とどのように付き合って生きるのかは，ここでの大切な生活の知恵です。これから訪れる長い冬，私はストーブに薪をくべながら，家族と，そして訪れ来る人々と共に，しみじみと語り合いながら過ごそうと思っています。

しかしながら，このような薪集めの日々の中にも，いくつかの重要な出来事がおこりました。

その第一は，「あぶらむの会発会式と土地買収契約書の調印」です。

ギリシャより帰ってすぐの10月６日，国府町役場より連絡があり，土地買収の契約書に印をおすことになりました。総面積17600m²(5330坪)，買収総経費2340万円になりました。生まれて始めての大買物，印をおす時とっても緊張しました。そして調印後は全身の力が抜けてしまいました。半年でここまでこぎつけれるなんて夢のようです。あぶらむの会発会式までに是非土地確保をと，町役場が積極的に動いて下さいました。国府町や地主の方々のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

そして10月10日，ささやかながらも「あぶらむの会」の発会式を行いました。私としては私たちの意気込みを地元の方々にお伝えしたかったのです。あぶらむの会発足の正式の式典は，「あぶらむの里」に第一号の建物「あぶらむの宿」が建った時にご案内させていただくつもりでいます。皆様にはいましばらくお待ち下さい。発会式には地元国府町や高山市より25名，応援にかけつけてくれた卒業生が40名，とってもにぎやかな船出となりました。また，翌日11日には，地元の方々との交わりと活動資金づくりを兼ね，バザーを催しました。いずれも多くの方々のご協力を得て盛会のうちに終りました。本当に感謝です。

第二は，「あぶらむの宿」を仮宿ながら開業したことです。

あぶらむの里建設予定地のすぐ側に空家が出たので，町の仲介で二年間借用することに決めました。古い家ですがなかなか趣のある家です。15名はゆったりと泊まれます。家族旅行やゼミ，クラブ合宿にご利用いただければ幸いです。景気づけにと，これまで 100名ほどの人々が泊まりに来て下さいました。美味な料理はまだまだですが，静かで心落着くだけが取り柄かと思います。

第三は，フィールドプログラム―― 生きた場からの学び―― を開始できたことです。この夏，ヨットを用いての体験教育プログラム，「あぶらむ海洋セミナー」を開催しました。特に，私たちの活動内容を理解していただくために，お世話になっている国府町より５名の方を，招待させていただきました。台風の影響で荒れた海での命がけの仕事となりました。他者にものを伝えるということは，命がけでやる時にはじめて伝わることを，改めて教えられました。

薪集めばっかしの日々の中にも，あぶらむの会にとって大切なことがいくつも

おこりました。今日こうして皆様に報告できること，本当に感謝です。

この通信が皆様のお手元に届くころには，我家のストーブはフル稼働のことと思います。半年に渡る寒い季節，せめて心暖かく生活したく願っています。

飛騨地の自然は冬が一番美しいのではないかと思います。その地の自然が一番厳しい時が，その地の一番美しい時だと私は思っています。

宇津江四十八滝周辺はクロスカントリースキーの最適地，冬こそ外でのびのびと遊びましょう。どうぞおいで下さいませ。「あぶらむの宿」は皆様の宿，いつでもおいでをお待ちいたしております。

寒さに向かいます，どうぞ呉々もご自愛下さいませ。

神の平安をお祈り申し上げます。

１９８７年１１月１５日　　あぶらむの会

代表　大郷　博

☆あぶらむの宿ご案内

飛騨国府町宇津江四十八滝入口に「あぶらむの宿」（仮宿）を開設しました。高山市内より20分，飛騨で最も飛騨らしいところです。ご家族や友人との旅行，また学校のゼミやクラブ活動の合宿等にご利用下さい。

宿泊可能人数　１５名

宿泊費　　３６００円（一泊二食［飲み物代金は実費］）但し，長期滞在者及び家族旅行は割引制度があります。ご相談下さい。

住所　岐阜県吉城郡国府町宇津江（ＪＲ飛騨国府駅より車で７分）

ＴＥＬ　０５７７（７２）３８２８

宿泊申込先　高山市山田町１２７４－１　「あぶらむの会」

ＴＥＬ　０５７７（３５）１８３０

☆あぶらむの会　フィールドエデュケーション・プログラムのご案内

「フィリピン　キャンプ」―― 人と人とが理解し合うことを求めて

フィリピンの草の根の人々と共に――

実施期間　１９８８年２月２３日～３月１３日（予定）

参加費　　１３万５千円（除，渡航手続き費用）

募集人員　２５名（原則として大学生以上）　詳細は「あぶらむの会」まで

あぶらむの会発会式

―――――― 国府町でのスタート ――――――

国府町は豊かな自然に恵まれ，人々の伝統の営みに支えられる，あぶらむの会がその本拠地にと切望している地です。

あぶらむの会と国府町は，この春よりささやかな交わりを持ちはじめ，双方の協力によるバロックコンサートの実現や，町の子供たちをあぶらむ海洋セミナーへ招待するなど段々と絆を深めてきました。

そしてこのほど国府町の暖かい協力を得て同町宇津江四十八滝にあぶらむの仮宿を開設するに至ったのです。

これを記念して秋の訪れた10月10日，町長をはじめとする同町の主だった方々をお招きし，あぶらむの会を応援する若者達が集い，「あぶらむの会発会式」が行われました。

会では大郷代表より「あぶらぶの会は自身の体験を通して生まれてきた実践教育活動であり，国府の地を中心に，海へ，アジアへと活動の場を広げ，旅する力をもつ若者達が一人でも多く育つ手助けをしていきたい」とあらためてあぶらむの会の生い立ちと，これからも歩もうとする道が語られました。続いて，集う若者達の熱意が次々と伝えられていき，心のこもった手料理と，お祝いに持ち寄られたアルコールの手助けもあってか，会は和やかに，そして熱く盛り上がっていきます。国府の方々からは，それぞれの想いと共に，あぶらむの会への期待と協力のメッセージを頂き，あぶらむの仮宿に集まった60余名には互に忘れられない夜となりました。

そして一同の胸に残ったのは，「これからが本当のはじまりだ」という安堵と希望と不安の交錯する新たなる決意でした。

明けて10月11日は「あぶらむバザール」の日。千葉県松戸伝道集会所を中心に全国から寄せられた献品の山に支えられ，四十八滝広場にて盛大に開かれました。

品物の良さと売り子のガンバリに加えて，お天気に恵まれ，四十八滝滝まつりに集まった人で終日賑わうなどの好条件が重なり，約20万円の収益を上げることができました。

このように，「献品を下さった人と，当日手伝っていただいた方々の応援の賜物」という，新生あぶらむの会にとっては，またとない門出の祝いとなりました。御協力下さった皆様方に心より感謝申し上げます。　　（鵜川久記）

１９８７年度夏期海洋セミナー報告

あぶらむ号クルー西村正和

あぶらむの会では，７月下旬から８月上旬の２週間にわたって，ヨットを使った海洋セミナーを行いました。

大郷船長を中心に，ヤマハ26フィートのクルーザー，“あぶらむ号”の活動が始まって早７年。そこであぶらむの会では，この７年間の経験を生かした体験教育プログラムとして，この海洋セミナーを行うことになったのです。

★　★　★

『海は広いーな　大きいーな』

海には，どこかのどかで，心の休まる，不思議な魅力があります。でもその海も，穏やかな時ばかりではありません。荒れ狂った時は，一瞬にして人の命までをも奪ってしまう，海には，そんな厳しい世界もあるのです。

そんな大自然の優しさと厳しさの中，私達はヨットを通して多くの事を体験し，学んできました。

☆　☆　☆

船が港に繋がれている時。それは安全に守られている時でもあります。波風と闘うこともなく，いざとなれば岸に逃げることもできる港の中‥‥。それだけに，港から外に出る時は，大変な勇気と決断が必要です。

船出の決断は，これから起こるすべての事を受け負う覚悟でもあるのです。それは，どこか私達の人生にも似ているかもしれません。とかく，自分の人生にあぐらをかき，守られた世界の中で生きようとしがちな私達。今いる港を離れて，新しい港に向けて船出する事に臆病になりがちな私達ですが，ヨットでの体験は，そんな私達に，船出の勇気と力を教えてくれるのです。

船出をした船が，航海をしていく時の大切な作業の一つに，現在地の確認があります。しかし，船は，自分だけでは，今どこにいるかが解りません。その為に，私達は燈台や山，岬などをたよりに海図を読み，コンパスを使って自分の現在地を求め，進路を決めていきます。それは，まわりとの関係の中で初めて解ることなのです。人生においても，他者の存在によって，自分の位置を知り，進むべき方向を知っていく事を考える時，船での体験は，まさに私達が生きていく力を育て，私達の人生旅路を応援してくれる，貴重な機会だと言うことができるかもしれません。

＜参加者＞

今回行なった３回の海洋セミナーのうち，２つは一般の小学５年生から高校生，及び社会人の方が参加して下さり，３つ目は，岐阜県国府町の中学１年生，及びその付き添いの方が参加して下さいました。参加人数は，各コースとも４～５名（定員）。それぞれに，大郷船長及び，２名のクルーがつきました。

＜海洋セミナーを終えて＞

晴れあり，台風ありの海洋セミナーでしたが，初めての試みとしては，まずまず成功だったのではないかと思います。

初日のオリエンテーションでは，ボソボソと自己紹介をし，緊張して船の説明を聞いていた子供達が，島めぐりや夜のゲーム大会，語り合いを通して次第に打ち解け，少しずつ船にも慣れていきました。待望のクルージングでは，思わず酔って“マグロ”になってしまった子，日焼けしてフーフー言っていた子，舵を任され，クルーを凌ぐうまさを見せた子‥‥と，それぞれの海を体験。最終日には，一人一人が自分の感想を語り，船をあとにしました。

格好よくて，楽しい事ばかりのはずのヨットが，案外厳しく，大変なものだったかもしれません。でも，この海での体験が，何かの気付きや発見のきっかけになり，これからの日常生活に繋がってくれれば‥‥と，スタッフ一同願っています。

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

また，この夏の「あぶらむ海洋セミナー」に参加した中学１年生のＯ君は，次のような感想文を寄せてくれました。

ピッピー，ピッピッピーとエンジンの音がする。僕はその時思った，「海ってなんてすばらしいのだろう」また，「海を旅する人はなんと勇敢なのだろう」と。海は穏やかな時は僕たちを包んでくれるが，いったん怒り出すと世界一の暴れん坊にかわる。だが旅人たちはそれを乗り越えていく，なんてすばらしい力だろう。

海は道路とは違い道はない，自分で切り開いて進まなければならない。まず勇気が必要だ。海はそんなに半端なものではない。その海との闘いなのだから，生きるか！死ぬか！の闘いなのだ。それ以上に大切なことは「信じる」ということである。前に父からも言われたことであるが，「どこへ行っても，何があろうとも，信じることを忘れてはだめだ。信じるということは，やがて希望につながる，もし，この世に信じるものがなかったら，人生何もないことと同じだ」。僕もこの「信じる心」を忘れたら，何一つ出来ないと思う。

それに，プラス「努力」が必要だと思う。信じているだけで，努力なしでは何もならないと思う。

船の旅においても同じことだ。波を一つの出来ごととしたら，波は来るけど船は動かない。波は何事もなかったかのように通りすぎていく。こんなことでは何にもならない。また波がやってくる，船もまた動かない。今度は大きい波でもっていかれてしまった。いいかえると，出来ごとがやってくるが，努力もしないで，「挫折」してしまうことだ。いくらゴールにつくことを信じても，進まなくてはなんにもならない。努力してこそ信じたことが実現されるのである。人生もその試練を乗り越えてはじめて意味があることを深々と思った。僕も思うだけでなく，つらいことに耐えることを覚えていかなくてはならないと思った。

ＷＡＮＴＥＤ！！――――――――おねがい！

「あぶらむの宿」では，次のようなものを必要としています。ご家庭にご不用品がございましたら，ご協力くださいませ。

・掃除機　・寝具（敷蒲団，掛蒲団，毛布，シーツ，枕，枕カバー）

・バスタオル　・お風呂マット　・ポット　・電気釜　・食器，鍋

＊中古車（キャラバン，ハイエース等ワンボックスカーに限ります。廃車寸前の車もＯＫです。また，有利な購入方法がありましたらお知らせ下さい。使用目的は送迎，荷物運搬です。将来は４ＷＤのバンを希望しています。）